

# センサと通報システムを一体化 激甚化している異常気象から 生活や社会インフラを守る

日高システム

日高システム（横浜市都筑区茅ヶ崎東、日高慎介代表取締役、045・944・5633、<http://www.hidaka-system.co.jp>）は、創業以来20年間、深井戸用水位センサおよび表示機／記録計のメーカーとして、工場、温泉施設などに製品を納めてきた。

中でも、温泉井戸用の投込式水位センサについては、全国でも100%近いマーケットシェアを持ち、全国の温泉に採用されている。深い井戸の中で稼働する同社の水位センサは、普段目にすることはないので、言わば縁の下の力持ち的な存在である。しかし、この水位センサの働きによって、水中ポンプなどの安全運転や、井戸そのものの健康度が保たれている。

また、3年かけて、社会インフラ向け独自のアラーム通報システムを開発した。本システムは、鉄道会社や電力会社などの所有する設備を常時監視し、アラームメールなどで管理者に異常発生を通報するものだ。センサと通信網を使った通報システムは既に広く社会で使われているが、2017年の九州北部豪雨をテレビで見た日高社長が、「アラーム通報システムと雨量センサを組み合わせて安価に提供できれば危険地区の不安解消により役立つのでは」と考え、開発をスタート。そして、20年間磨いてきた同社のセンサ技術と最新のIoTサービスとアプリケーションを組み合わせて、よりリーズナブルかつ社会の多様なシーンで役立つ

「Repos-IoT」システム

として、発表した。

この「Repos-IoT」は、河川や山間部では、水位、斜面の崩落、雨量などを計測するセンサと組み合わせ、異常を監視でき、さらに、工場、温泉、中小の商業施設の管理にも応用範囲を広げていく。



温泉井戸現場に水位センサを設置する作業



↓電力会社向け傾斜センサ設置状況

